

「北海道一周鉄道旅行 (26)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

納沙布岬は実は「日本最東端の地」ではありません。もっと東に我が国の領土があります。一つは「南鳥島」です。しかし南鳥島は防衛省、国土交通省、気象庁などの職員が常駐するだけで、一般旅行者が観光目的で上陸することはできません。



もう一つは「北方領土」です。納沙布岬よりも西にある「歯舞群島 (はぼまいぐんとう)」「色丹島 (しこたんとう)」「国後島 (くなしりとう)」「択捉島 (えとろふとう)」などを指します。一番東にある択捉島の「カモイワッカ岬」も「日本最東端の地」ではありませんが、宗谷岬より北なので「日本最北端の地」ということになります。択捉島は、本州、北海道、九州、四国に次いで、日本で5番目の面積の島です。



「四島の架け橋モニュメント (納沙布岬)」

これらの北方領土の島々は、歴史的にも、国際法上

も、地質学的にも、植生でも、日本列島の一部であり、日本固有の領土であることは間違いありません。終戦以降ロシア (かつてのソ連) による実効支配 (不法占拠) が延々と続いています。特に根室周辺の人々にとっては、かつての故郷あるいは居住地だった方も多く、納沙布岬はその「望郷の地」の一つなのです。

このあたりからは、北方領土は目と鼻の先です。標津町の野付半島からは、晴れた日には国後島が見えるし、夜間には灯台の光もはっきり見えます。



釧路や根室は夏でも涼しいことで有名ですが、この日の納沙布岬の気温も 20°C で、少し肌寒かったです。



「流氷の納沙布岬」(画 ; C.Tanaka)

最初に納沙布岬を訪れたのは、もう 30 年以上も前の真冬でした。このあたりの海域は、気象条件によってはオホーツク海からの流氷で埋め尽くされます。列車の中で知り合った男性が、「よし！この流氷の上を歩いて、北方領土まで行ってくる！」と宣言して、実際に氷の上に降りていきました。しかし数分後に「無理かもな・・・」と言ってもどってきました。実際に、かつて網走五郎氏 (元俳優) は、自力で貝殻島まで泳ぎ着き、ソ連の国境警備隊に逮捕されたそうです。



「納沙布岬の灯台」(画；C.Tanaka)

この日はよく晴れていました。岬の突端には、白い灯台しかありません。「最果て」という語がありますが、まさにそんな雰囲気のある場所です。



路面には北方領土の略図が描かれています。その上を歩くと、いかに北海道の近くに位置しているかを実感できます。



岬の沖には、海上に白い塔のようなものが建っているのを見えました。これは「貝殻島灯台」といって、貝殻島という小さな島にあります。貝殻島(かいがらじま)は「貝殻」とは何の関係もなく、アイヌ語の「カイ・カ・ラ・イ(波の上の低い島)」の音訳です。



灯台は昭和12年に日本が設置したのですが、現在は保守点検ができず、消灯した状態が長く続いていました。満潮時には灯台だけが海上に姿を見せ、基盤も浸食されて傾いているのがよくわかります。



この灯台と納沙布岬の中間地点(約1.9km)の海上が、現在の事実上の国境となります。島国に住む日本人にとって「国境」というのは縁遠い存在です。しかし納沙布岬に立って貝殻島を見ると、こんなに近くに事実上の国境があるのか・・・と実感できます。



岬には根室市立の「北方領土資料館」があります。無料の詳しい資料もあり、是非立ち寄りたい所です。